

2009年9月14日(月) 15:15-17:00

講演：アジアにおける新しいインフラ整備とエコシティ

(2) 「アジア：未来都市としてのエコシティ」

コー・ケン・ホア シンブリッジ インターナショナル シンガポール株式会社 CEO

アジアにおけるエコシティ構築の背景として、2つのメガトレンドが挙げられる。1つは急激な都市化。例えば今後15年の内に、インドでは都市部に日本の現在の人口の2倍の人が住むようになり、20年の内には中国都市部の人口は10億人になる。2つ目は環境劣化が進むこと。都市は世界の70%を占める温室効果ガスを排出している。今こそ、急激な都市化のトレンドと環境改善が両立する新たな都市、エコシティを作っていく必要がある。そのようなエコシティは非分散型でなくコンパクトで、無節操でない統合的な開発を行う、かつエネルギーを効率利用する持続可能な都市であるべきだ。中国が将来の都市をこのような基本的概念で設計していけば、今後10~20年以内に公共支出、環境汚染の軽減に多大な成果を得ることになるだろう。

これまで開発してきたエコシティでは3つの調和を志向してきた。まずは社会との調和であり、人と人がコミュニティとして生活し活気がある都市であること、そして環境、及び経済発展との調和である。これらを実現させるためには、インフラを始めとするハードウェアと、ソフトウェア即ち投資等のサポート、また方針・規制などのガバナンスの3つが重要な成功要因となる。

エコシティとして、蘇州工業団地、天津エコシティ、広東省のナレッジシティの事例が紹介された。これらにおいては、持続可能な開発に関するKPI(グリーンビルディング標準への適合や大気汚染物質のマネジメントその他)の管理、優れた人材・ナレッジベースを有する企業を積極誘致する等、特徴ある取り組みが行われている。シンブリッジ社は各国政府・自治体・投資会社等と協力しながら、統合された都市開発のソリューションを提供してきた。エコシティとは将来の都市とはこうあるべきだというもので、アジアにとっても世界にとってもモデルとなる姿であると認識している。

< 質疑応答 >

質問①：中国における安全な水資源の確保やCO2 排出問題に関し、日本にどのような協力を求めるか。

コー：水問題は技術を活用したりリサイクルや節水への意識を高めるなど、技術及び人々の行動の両面を組み合わせることで解決できると考えており、日本に対しては、技術支援や資金面での協力を期待する。CO2 排出に関しては一国で解決できるものではなく世界が協力していくことが不可欠と考えられる。

質問②シンブリッジ社のビジネスモデルは？

コー：同社が現地企業のコンソーシアムとジョイントベンチャーを作り、このジョイントベンチャーをマスターデベロッパーとして自治体や外部からも投資を募って運営している。

質問③スラム化への危惧と対応について。

コー：エコシティでは計画・開発の段階からスラム化への防御は配慮しているが、必ずしも富裕層の街として構築することは基本的な思想にはなく、自治体にも協力してもらって所得層の多様化と社会的調和の確保に腐心している、スラム化については事実上既存の都市の方が心配であろう。
